

# ネパール・シカの会 2007年中間調査報告書

2007年10月15日作成

## 調査期間

2007年9月30日～2007年10月10日

## 調査員

齋藤 謹也/ヌルプ・ラマ/齋藤 孝/穂坂 光紀

## 調査行程

9月30日：羽田発 21：50

10月1日：関空発 1：25/バンコク発 10：40/カトマンドゥ着 12：45

13：30 ラマ氏と空港で合流しボダナートで打合せ 14：00～15：00

日本大使館訪問 15：30 ヴァイシャリ・ホテルでチェックイン後今後の日程確認。チベット鍋（ギャコ）でラマ氏と再会会食。

10月2日：ホテル発 8：00/カトマンドゥ国内便ブツダ航空にて発 9：45/バイラワ着 10：25/グルワニマイ校 10：45/スンディ校 12：00/制服製作状況視察/法華ホテルにて昼食/マヤデビ校/ルンビニ公園にて民芸品調達/法華ホテルチェックイン

10月3日：法華ホテル発 8：30/ルンビニ公園 9：00/マヤ聖堂参拝と民芸品調達/民芸村 10：00/マズワニ校 11：20/診療所・寺子屋視察/ルンビニ校 13：00/シリシリ・ラム校 13：30/ヤナトラ八校 14：10/グルマニワイ校 15：00/プトワール・ナグロレストラン昼食 16：00/タンセン着 17：30/塩屋訪問後ナグロレストラン懇親会 18：30/ スリナガル・ホテル 21：30

10月4日：トリブヴァン大学理系 7：30/ワーキング・スクール 8：00/J V T 8：30/セン校 10：45/モホン校 11：20/ミレニアム校 11：55/ナグロレストランにて昼食 12：35 トリブヴァン大学文系 13：20/シリナガルカレッジ 13：45 バイラワ着 16：30/カトマンドゥ着 19：00/ホテル・ロイヤルシンギチェックイン 19：30

ホテル・ロイヤルシンギ泊

10月5日：理事長・齋藤孝・穂坂 3人でスワヤンブナートへ 8：30/ラマ氏と合流しパドマカニヤ校 11：00/昼食 12：00/JICA 訪問 14：30/プロバイダー調査 14：45/日本

語学院 15:30/ラマ・齋藤孝プロバイダー他コンピューターショッパ視察/齋藤  
理事長帰国安全会食会スリジャナ女史招待

ホテル・ロイヤルシンギ泊

10月6日: ホテル・ロイヤルシンギ発 10:30/齋藤理事長空港見送り 11:00/バクタプール  
にて昼食 12:00/ナガルコットカントリーヴィラ着 15:00/ラマ氏・齋藤孝ナガ  
ルコット散策/ラマ氏齋藤孝夕食(穂坂会員ダウン)カントリー・ヴィレッジ泊

10月7日: ナガルコット/軽ハイキング/チャング・ナラヤン/桃太郎にて昼食/タメルにて民  
芸品調達/ ヴァイシャリ・ホテル泊

10月8日: 午前自由行動/午後穂坂自由行動・ラマ氏齋藤孝文殊菩薩遺跡・キルティプル観  
光後 JICA 連絡/3人でネパール・レストランにて会食 ヴァイシャリ泊

10月9日: ホテル発 10:30/空港でラマ氏と別れ、スリジャナ女史の案内でチェックイン/  
約2時間遅れの離陸 15:40/バンコク着 20:30/バンコク発 22:10/

10月10日: 成田着 6:20/町田着 9:10

## 総括

外務省の海外治安情報を見ると、ネパールのルンビニ地区は危険度第二段階の「渡航の是非を検討してください」とあり、タンセン・カトマンドゥ地区は危険度第一段階の「充分注意してください」となっていたが、反面チケットはバンコクーカトマンドゥ間の航空券は3ヶ月間の満席状態であった。調査は延期または中止かと思われたが、急遽1週間前にチケットが取れ慌しく出発をした。ネパール入りして治安面では日本大使館付近での爆破事件・ルンビニでの銃撃事件の直後近くを通ったが、ラマ氏の配慮で安心・安全に調査は円滑に進められた。調査項目で重要項目は マズワニ高校の開校目処 制服プロジェクトの進行状況 マヤデビ校の建設支援資料で は順調であったが とグルワニマイ図書館の建設資材の高騰が懸念される。支援校はほとんど前向きな姿勢で希望を持っていてルンビニでは10+2への発展方針が念頭にあり、それに付随した施設の増設が計画されている。タンセンにおいては図書支援の期間終了後も引き続き支援の要望があった。また、実験室での充実として道具・薬品の要望も多くあった。

11月22日に予定されている総選挙(滞在中5日に中止になったとニュースが入った)と10月12日に始まるダサイン祭の為、数人の要人と接触不可となったが、選挙中止で今後のネパールでの正常化は懸念され、更にルンビニ地区においてはマオイストのイデオロギー問題・ヒンズーとイスラムの宗教問題・インド系民族と山岳民族の民族問題が混沌としており、更に政府から見放されているルンビニ地区において教育支援にフォーカスしている当会は今後の動きに注目をして行かなくてはならないだろう。

内戦・内乱で一番の被害者は子供達にあることを実感した。

イラム訪問の計画があったが、バンダの発生率が高い為取りやめにした。訪問予定日から5日間のバンダが決定していた。

## 調査項目

### カトマンドゥ

#### 現地治安状況把握・日本大使館



10月1日15時30分、日本大使館 第一秘書吉野 睦氏と面会。

以前コンタクトを取っていた富田氏はタンザニアへ移動した。

日本大使館治安情報収集 ルンビニ タンセン 今後の展望

カピル・バスという地区が最近まで外出禁止令が発動されていたが、地元リーダーが何者かによって暗殺されるという事件が発生。特に確証は得られてないが、ヒンズー教徒がこの地元のリーダーを含め、イスラム教徒と山から降りてきた商人 30 名近く死傷し 250 件近くの車両や住宅が焼き払われた。

今後の治安情勢については、全く不透明である。11月22日に予定されている選挙の動向も無視できない。実際に実施されるかどうかも定かではなく、マオイストが現在の小選挙区比例代表制から比例代表制にしたいということで調整中。実施されるにしても実施されないにしても、その結果がどのように政権に影響を及ぼすかについては予測ができない。

また、最近続いていた洪水等の水害については、全国各地で被害が出ている。ナランガヤートからルンビニに行く橋が崩れた被害が発生したが、そちらは復旧し完了した。他の地域では一部通行止めのところもある。

従って 2 月の支援の旅については、出発される直前まで現地の情報を収集したほうが良いだろう。事前に日本大使館に問い合わせをもらえれば、地元の警察を通じて情報を提供することが可能である。

シリ・マヤデビ校の建築の可能性について

建築にあたっての危険性については、なんとも言えない。地元警察から治安情報を収集することは可能。ルンビニ地区の地図をコピーして吉野氏に渡す。大使館からの情報はラマ氏に報告をするよう依頼した。

## 創立 10 周年スポーツフェスタ報告

吉野氏はミカの会の会報を見たことはあるが、夢の記・スポーツフェスタの CD は見たことがないとのこと。今後機会があれば是非見て欲しい旨を伝えた。

## マズワニ高校早期開校策の要請

現在政治が安定しないため、通常では置かれているはずの陳情先がルンビニには存在していない。機会があれば日本大使館からミカの会がこのような開校を要請しているということ伝えていくというが、実際は見込み薄。JICA に NPO ヘルプデスクがあるのでそこで相談してみてもとのこと。

## 映写機材貸出の可否確認

以前に笹井氏がおっしゃっていることなので、それは問題なく可能ではないかとのこと。笹井氏自身は昨日から休みをとっているため、直接本人に確認は出来ないが、そちらについては笹井氏と連絡をとりあって、やっていただければ良いのではないかとのこと。その他

ニュースで流れている内容については、色々な情報が錯綜しているので過剰に反応しすぎないこと。日本大使館が NPO に関して事前に持っている情報はあまりないので JICA から情報を得た方が良いと思われるが、事前に問い合わせることにより回答は頂けるようなので、治安情勢等については有効な情報源となりうる。NPO 団体で日本大使館を訪ねる団体は珍しいので日本大使館もミカの会については、概ね好印象をもってもらえたと思われる。

## JICA ネパール事務所訪問



事務所は最近パタンへ移転し対応は Gopal Gurung 氏。

田中さんはセーブ・ザ・チルドレンのカトマンドゥ事務所の代表として現在もカトマンドゥに在住。後任の黒坂氏はポカラへ出張中で 8 日夕方から夜に戻るため、再度のアポをとる。 = = = 8 日夕方に連絡したが、ポカラから戻っている最中とのことで、訪問は見合す。

## カトマンドゥ日本語学院

### パソコン回線ブロードバンド化の確認

カトマンドゥのプロバイダーを2件調査したが、Vianet-Communication社は接続料が6000ルピー/月で、MERCANTILE社は6666ルピー/月と高額で、学校での経費としては負担が大きくなってしまふ。また、PCショップの調査では、ディスプレイがブラウン管使用主体で液晶は見かけなかった。ラップトップは機種が1~2機種で選択肢ができない。ルンビニ・タンセンで見たPCのOSはすべてWin98で現在サポート体制がない。ネパールでのネット環境はまだ遅れていて普及にはかなりの時間がかかる見通しである。したがって今回のブロードバンド化は見合わせることにした。

### 今年度寄贈要望確認

ラマ氏が日本に来たとき日本文化のポスターやカレンダーを持ち帰りパネルにして各教室・事務所に飾っていて、それらのポスター・カレンダーを要望された。会員や写真の会に呼びかけA3の大きさに伸ばし渡すことにした。額に関しては日本語学院で調達と言っていたが費用については検討課題とした。

ラマ氏が日本の食堂にある日本食ディスプレイ用のサンプルに大変興味をもっていて授業でそのサンプルを使用したいとの要望があり、購入し渡すことにした。

## パドゥマ・カニヤ女子校訪問 新羽中学校校文通確認



新羽中学校には送ったはずだが、住所不明で届かなかった可能性があるとのこと。先生の代表がまとめて送ることも可能だが調査してみるが、文通は続けたいとのこと。校長より、新羽中学校宛の手紙を受け取る。10+2が始まった為、図書が必要となりPCも現在2台あり今後中程度のものを15~20台希望(実際は50台必要)。特定の企業がミカの会からと要望があった。図書支援についてはミカの会の事業であるので、要望リストの提出を伝えた。10+2の供託金が80万ルピーであった為、図書予算が無くなったとのこと。

奨学金を 10+2 用に理事長へ要請があったが、入学金 5000 ルピー・1 年間の授業料は 10000 ルピー/1 年間で他費用と併せ合計 30000 ルピーで候補者 10 名。

10+2 用の支援で書庫 2 個(単価 ¥ 10000) 文通を再開 ナカオ寄付金で椅子 150 脚(1 脚 1000 ルピー) 上記 3 項目を決定。

### 酸素凝縮器の設置状況の確認

今まで酸素はコスト・運賃・時間がかかっていたが、すべてが短縮でき非常に活用しているとのこと。礼状はすでに発送済。

### 新規普及啓発品の調達



主にカトマンドゥ・タメル地区にて調達したが、ルンビニでもアクセサリ等の調達もした。タンセンではタンセン織の財布を製造している所も見つけたが価格が少し高めも為サンプルのみ購入し検討することにした。レートは 10 ルピー = 5.3 円。

## 株ナカ才寄付金用途検討 予算 30 万円

パドゥマ・カニヤ女子校のホールに椅子が無く、コンクリートの床に座ることを躊躇する学生が多いので、折りたたみの椅子を寄贈したらとラマ氏より提案。1脚 1000ルピーで 150 脚購入でホール内はある程度賄える。この案を学校に提案したところ、本当はPCが必要だが台数が限られる為、椅子に内定した。



写真は以前ミカの会が贈答した椅子

## 支援の旅旅程確認 ルート 日程確認 現地滞在費用概算確認

グルワニマイ図書館・マズワニ高校開校と映写会実施を考えると2月28日ころが良いではないか。2月21日は新月の為、28日頃なら映画に手ごろな暗さだろうと。ルンビニの法華ホテルはルートで中間に置いたほうが、疲れの関係で休めるのではないだろうか。滞在費用は1万円/日が現在だが、半年先の物価は不透明。

# ルンビニ

## 既建設支援校視察

各学校の学年別男女別生徒数は別表

制服支援学校別リスト別表

シリ・グルワニマイ小学校



10月2日午前10:45訪問。パドリ・プラサド・バル校長と面談。ミカの会から寄贈された扇風機が心地良い。校長へ図書館に飾る時計を渡した。

制服支援については50着がほぼ完成し、明日制服着用し我々に見せるとのことだが、帰りに寄ったが、まだ納品されていなかった。製作がバイラワでなく学校のそばのルンビニで作られている。教職員の採用について、本来はカトマンドウの文部省ポカラのエリアセンターバイラワの教育委員会各学校という流れになっているが、現在は各コミュニティに任されていて、何名分の職員の給料を支給するという形がとられており、各学校の状況について教育委員会が年の2回視察に来る。図書館の時計設置に関し、枠ができたなら正面の保護で素材が無い場合はミカの会はアクリル板を日本で調達すると伝える。図書館の設計は気温の差が激しいので、伸縮を考えドアは大きなものは避けて欲しいとのこと。また大きな問題として資材の高騰で鉄筋・コンクリート・レンガ・等の値上がりだ。完成は来年の支援の旅に合わせる。工事用の車両はバイラワ側の旧道から誘導する。通学路の整備は、現在の道幅に30cm~1m拡張し土地取得の旨を提言した。交渉次第ではあるが、入り口から校舎までの導入路の長さが30mあるので、これを30cm幅拡張する為の土地取得金額は約25万~30万円と推定。土地オーナーとの交渉は校長でなくラマ氏が直接交渉が良いだろうということになり、翌日再訪の際での回答は権利者は3人の兄弟で取得は無理と判断し現状を整備することにした。

図書館の先には4教室の校舎が近くの企業の支援で建設される。

図書館に関しては、図書館利用者の範囲を近隣住民まで含めると、管理するにあたって、管理を専門にする人を雇わなくてはならなくなる。当面は利用者を生徒に限定して、管理者は今の職員の中から選んで、必要になればその職員が午前中遅い時間に来て貸し出

しの時間の夕方まで変則的な勤務形態をとるといことも可能。希望図書については、随時必要と思われる本の要望を出してもらい、数年かけて蔵書を増やして行く方向で話した。今後は教職員用の図書も充実させて、図書館を使い教職員の育成センターの様な役割を担ってもらえたらという話しをした。

映画会はスクリーンサイズが 16mm では小さいのではという疑問があった。

### シリ・スンディ小学校



10月2日午後12:00訪問。ソマイ校長と面談。制服支援については、5年生の34名分が完了。制服支援について子供達は大変喜んでいる様子。スンディ小学校より机と椅子の要望があった。現在2年生の一部と1年生の教室には椅子も机も置いていない状態で授業をしている。なぜこのような状態になっているのかは、現在小学校の職員のうち3名が、国からの補助ではなく、学校が給料を支払っていて、国からの設備に対する助成金が削減されていることにより、設備にお金が回らないとのこと。中学を作るため今度の1月に助成金を申請するためにも机と椅子が整っているという点を審査委員会に見せたい。その為に机と椅子を50セット(1セットあたり約1200ルピー)が欲しいとの要望があった。中学を作るには机椅子の設置義務があるそうだ。更に学校周囲には柵の設置も計画。4年生以下の子供達は基本的には私服だが、4年生以下の子供達の中にも制服のようなものを着ている子供達がいるが、このような子供達は家庭が貧しいために政府から服の支給を受けている子供達であることを知った。校長の話では、スンディ小学校の子供達の学力はとても向上しているのので、支援している学校で学力テストをやって

みてくれと言っていた。スポーツフェスタについては子供達もとても喜んでいる。新しい活動のスポーツがあったことが良かった。新しい元気も出てきて綱引き・ボール入れが好評。前は3位だったけれども出来れば毎年開催して欲しいとのこと。

現在のよころ中学校建設が大きな希望となっているが、第一番目に机椅子の設置、第二番目に校舎、第三番目に教師が揃ったところで、中学の開校が認められる。現状でも机椅子が不足している。スンディ小学校の要望を再確認すると、最優先は机と椅子50セット、続いて中学校の建設、図書館についてはその次といったところだ。

### シリ・マヤデビ校建設支援の方向付け



・建設予定図面の再確認

図面で再確認したが、変更があるため図面は渡さず、閲覧に留める。

・所在地：ルンピニ 7 マノウリ マヤデビ小学校

・校長名：マッテリカ・プルサド・マオリア

・就学率：気候によって変動があるが、この地区の世帯数が120件あり人口は2000名、小学生の人口は約600名程か。生徒は乾季の時期で多いときは240名~250名くらいが学校へ来る。子供数は1件3~6人で推定360名~720名の子供がいる。現在の在校生は266名いるが、就学率は73%~36%となる。

・学年別生徒数：

学校名	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	3年男子	3年女子	4年男子	4年女子	5年男子	5年女子
マヤデビ	40	26	45	25	29	22	16	14	8	9
	1年合計 66		2年合計 70		3年合計 51		4年合計 30		5年合計 17	
マヤデビは 3歳~5歳併設			男子	女子						
			14	17						

10月2日午後3:30着。普段は子供達が帰る時間であったが、私達の到着の為に待っていてくれたらしい。教師の人数は全4名のうち、1名は政府の補助ではなく学校から給料を払っている。マヤデビ小学校は数年前に政府より学校増築の為に支援を受けたが、その時に支援を受けた金額が5万ルピー、手許に届いたときはピンハネされ4万ルピーとなっていた。その中で校舎の建設を始めたが、当然資金不足の為に計画は途

中で頓挫したまま放置されていた。建物のサイズは幅 5.5m高さ 2.8m奥行き 3.6m床下 0.3m入り口 0.85mとなり窓は 3ヶ所となっていた。本来ミカの会での建設予定は 3 教室 1 職員室という形で 1 棟の計画であったが、未完成の建物を職員室として完成させ建設予定の校舎は 3 教室にすると伝えた。建設位置は当初の計画通りを基本とするが、予定場所にまっすぐ建築すると校庭のスペースが狭くなってしまうので、となりの地主と話し合い、その土地に一部かかった状態で建設する。

建築費用については、実際に動き出した時にどの位になるのかという部分もあるが、グルワニマイ図書館と同様に、鉄筋・コンクリート・特にレンガが高騰しているので、申請金額については慎重に見直しが必要。建築のベストシーズンは、来月で来月から着工すれば来年の 4 月～5 月頃には完成する模様。校長と村の人の話では、学校の建設についてはとてもありがたい話で、村をあげて出来ることを協力するそうです。マオイストも色々な学校建設を見ているので協力をしてくれると思うとのこと。学校まで続く道が雨の影響もあり、かなり交通が難しい状態であるが、村の人が道の整備にも協力をさせていただきますとのこと。



## マズワニ小学校・中学校



10月3日午前11:20訪問。加藤プロジェクトで余剰資金があり、それで8年生の制服も製作することにした。学校に電気メーターが届いたので電気が使えるようになった。小学校の1年生~3年生までの机椅子がないので、できれば高校と一緒に支援の要請ある。1~3年生の分は60セット必要。中学校が出来たお陰で、今まで学校に来ていなかった子供達が来るようになったこと。特に女子の学生の割合が約半数までに増えたことは嬉しいとのこと。

映画会は可能だが、満月は避けたい。16mmはOKで500名収容できる。

## マズワニ高校

マズワニ高校は来年の4月から開校することが決定していた。開校するにあたった教育委員会が視察に訪れる予定で、学校に机と椅子が揃っていないといけなないので机と

椅子の支援要請があった。来年は中学を卒業する生徒が 9 年生として入学する（来年の 10 年生は居ない）ので本格的に開始するのは再来年ということになる。高校開校にあたり、供託金が 20 万ルピー必要になるが、そちらについてはマズワニ村で調達するので問題ないとのこと。現在 8 年生が 42 名いて、高校には他の地区からも訪れるので約 70 名になる予定（10 年生も足すと約 140 名）で 20～25 セットの机椅子が必要。来年 2 月に本隊が到着するにあたって開校式を開催するということを確認。図書室については開校と同時に出来るようにするが、開校に際し図書室もある程度内容を充実させておきたいと思うが、机椅子の準備が急務のため、図書支援の一部を机椅子の購入に充てることが可能か。これから 2～3 ヶ月かけて欲しい図書をリストアップしてもらおうよう依頼。生徒用のみではなく教師用の図書についても充実させて行きたい旨を説明した。また、本を村への貸し出しも検討するよう伝えた。

将来の希望として窪地を埋め立てし校庭を広げ学校の周囲にはレンガの柵を作りそこに植物を植え立派な正門を作りたいとのこと。



校舎のすぐ裏には雨の影響か道が無くなり、校舎の一部は水没していた。



## ルンビニ小学校



10月3日午後1:00訪問。制服については現在5年生が居ないため、製作していない。来年は5年生までできるので、学校を大きくしたいが土地については近隣の地主が土地を売らないといっている。また校舎についてはマヤデビと同じく政府から5万ルピーの資金が出たが、当然足りず1万3千ルピーを学校が負担したが、それでも足りず中途半端な状態で放置されていた。村から予算ができれば即開校するが、いつかは分からない。

## シリ・ラム小学校



10月3日午後1:20訪問。制服を作っているところがイスラム系でラマダンの影響で完成が遅れている。1年生と2年生は2クラスに増えて4教室を使うので教室自体が足りなくなってしまう。更に机椅子が不足して使用しているのは3・4年生のみとなっている。中学建設には供託金の15万ルピーが集めきれない。マズワニ中学と違い、貧しい家庭が多いのが原因で上級生になると家の仕事手伝いで学校へ来なくなる。問題点は教室不足と中学への供託金。これに対してミカの会は供託金の支出は不可であり村へ交渉するように伝え、設備に関しては会で検討すると回答した。

## ヤナトラハ小学校・中学校・高校

10月3日午後2:15訪問。スポーツフェスティバルについては、ルンビニ地区で運動会をするということはとても珍しいことなので、子供達はもちろんのこと、教師にとっても、他の学校の職員同士がコミュニケーションを取ることができ各学校の理解もでき

た。これからスポーツ以外での交流を持てるようにしたい。祭りの感じがして、良い経験ができたことで、このようなチャンスは今までに無かった。次回は3種目以外で取り入れたい種目は人気があるクリケット・サッカー・走り幅跳びである。運動会は今後も学校・学生は協力できる。表彰式はあったほうが良い。



### バイラワ教育委員会とのコンタクト

バイラワの教育委員会の人は、選挙のためカトマンドゥに行っている為、連絡が取れず、今回は見合わせた。

### 地区行政機関とのコンタクト

総選挙の為、接触不可。

### シリラム近くのレンガ工場視察

10月3日午後2:00訪問。現在のレンガ価格は1000個あたり5000ルピーとかなり高騰している。主な原因は雨季が長引き、その間レンガ作りが出来なかった為、全体的にレンガが不足しているとのこと。レンガを作る際の木炭の値段が上がっていること。これから、乾季に入りレンガ作りが再開されるので多少は値段が下がると思うが、以前のような1000個あたり2800ルピーのような金額には下がらないと見込まれる。



## 図書館の多目的活用の協議 映画会

図書館の多目的活用方はグルワニマイでは、教師の育成センターとして当面は考えているようであり、他では当分の間は生徒教師主体で本の活用のみから次第に発展的に活用が良いだろうと判断する。

映画会は全体として野外が良いと意見があり、満月を避けた日が良いだろうとのことだ。会場はグルワニマイとマズワニが上げられるが、マズワニ積極的でグルワニマイは消極的と感じた。マズワニでの収容人数は500名とのこと。

## 移動図書システムの検討

グルワニマイでも話しが出たが、管理運営に関して不備が多く出ると察する。暫く様子を見てはどうだろうか。

## マズワニ村医療体制の現状調査

マズワニ村の診療所については現在再開されていて、以前の保健婦さんも引き続き働いている。診療所は土曜日以外は毎日開業されている。他に2名のスタッフもいる。毎日60名位が診察に来ているか往診が行われている。支援したベットでは多くの子供が生まれている。選挙の関係でセンターの方から薬品が届かない状態だそうだ。



## 寺子屋施設の活用実態調査

寺子屋のサポートは無くなった。パイラワの教育委員会は学校に行けない3~5年生の子供達の面倒を見るという計画もある。最初の頃はサポートを受けて色々なプロジェクトが生まれたがサポートが無くなってからは、ほとんどのプロジェクトは継続不能になってしまった。その中でも野菜作りのグループだけは現在もうまくいっている。(季節外の野菜を作ることで価値をあげている。)



## 現地事務所設置の可能性検討

維持・管理を考えると現状では難しいと判断。

## マヒワリ民芸村との民芸品調達推進策 注文品の確認購入

民芸村へ依頼していた注文品と民芸品を見せてもらったが、価格設定が高いということと、デザインがどうしても日本人の好みに合いにくい。価格については大量生産することで引き下げることが可能。民芸村の商品がミカの会の主力商品となるのはまだ当分先になりそうだ。注文していた商品についても、日本に帰ってからデザインを考え直して改めて発注する旨を伝えた。



別表 1 2006年学年別男女別生徒

2006年	グルマニワイ	マズワニ	シリ・ラム	スンディ	ルンビニ	ヤナトラハ	マヤデビ	横計
1年	127	196	200	201	60	88	66	938
男子	54	105	112	104	56	53	40	524
女子	73	91	88	97	42	35	26	452
2年	138	82	124	83	65	47	70	609
男子	59	45	58	39	35	27	45	308
女子	79	37	66	44	30	20	25	301
3年	65	81	53	74	49	42	51	415
男子	49	40	26	50	24	25	29	243
女子	16	41	27	24	25	17	22	172
4年	53	80	39	45	0	40	30	287
男子	32	45	24	28		29	16	174
女子	21	35	15	17		11	14	113
5年	52	81	41	43	0	41	17	275
男子	35	45	34	39		32	8	193
女子	17	36	7	4		9	9	82
6年	0	44	44	44	0	107	31 プレスケール	239
男子		27	27	27		92	14	187
女子		17	17	17		15	17	83
7年	0	56	56	56	0	90	0	258
男子		28	28	28		64		148
女子		28	28	28		26		110
8年	0	0	0	0	0	90	0	90
男子						73		73
女子						17		17
9年	0	0	0	0	0	63	0	63
男子						51		51
女子						12		12
10年	0	0	0	0	0	30	0	30
男子						24		24
女子						6		6
全校合計	435	620	557	546	174	638	265	3235
男子合計	229	335	309	315	115	470	152	1925
女子合計	206	285	248	231	59	168	113	1310

別表 2 2007年学年別男女別生徒

2007年	アディアリ	グルマニワイ	マズワニ	シリ・ラム	スンディ	ルンビニ	ヤナトラハ	アマリ	横計
1年	129	96	97	130	92	103	77	93	817
男子	68	48	37	72	45	56	63	41	430
女子	61	48	60	58	47	47	14	52	387
2年	100	89	115	133	97	28	60	75	697
男子	48	37	62	65	48	2	35	34	331
女子	52	52	53	68	49	26	25	41	366
3年	102	118	61	79	65	49	50	60	584
男子	50	58	32	38	29	28	24	40	299
女子	52	60	29	41	36	21	26	20	285
4年	63	55	51	37	62	28	42	31	369
男子	40	40	16	2	42	13	25	16	194
女子	23	15	35	35	20	15	17	15	175
5年	62	50	63	43	36	52 プレスケール	55	26	335
男子	45	36	36	28	24	27	40	14	250
女子	17	14	27	15	12	25	15	12	137
6年	0	0	78	0	0	0	78	0	156
男子			55				60		115
女子			23				18		41
7年	0	0	43	0	0	0	81	0	124
男子			25				66		91
女子			18				15		33
8年	0	0	42	0	0	0	69	0	111
男子			19				52		71
女子			23				17		40
9年	0	0	0	0	0	0	65	0	65
男子							55		55
女子							10		10
10年	0	0	0	0	0	0	51	0	51
男子							39		39
女子							12		12
全校合計	456	408	550	422	352	260	628	285	3361
男子合計	251	219	282	205	188	126	459	145	1875
女子合計	205	189	268	217	164	134	169	140	1486

別表 3 制服プロジェクト 学校別 男女別 製作リスト  
制服プロジェクト

	アディアリ	グルマニワイ	マズワニ	マズワニ中	シリ・ラム	スンディ	アジアナ	アマリ	横計
5年	62	50	101	121	43	36	45	26	484
男子	45	36	55	80	28	24	35	14	317
女子	17	14	46	41	15	12	10	12	167

ラマ氏より聞き取り調査で聞き違いが有り、合計数で違算あり。

正確数

MIKA プロジェクト	
マズワニ中	
男子	80
女子	41
計	121

加藤 プロジェクト	
男子	241
女子	126
計	367

製作総数	488
------	-----



## タンセン

### ナグロ・レストランにて懇親会



18:30~21:00 参加者 12名+ミカの会4名=16名

10年の計画で図書支援を行ってきたが、その後の図書支援は満場一致で継続希望。図書支援はどの程度役に立っているか、また今後の図書支援の継続希望するか又は奨学金の希望が文章を提出。

今後更にタンセンとミカの会の友好を深めたい。手紙は明朝用意する。

10月4日各学校を巡り図書支援の成果と要望の手紙を受け取る。

### トリプヴァン大学理系



図書の貸出は1回に2冊と限定しているが、3冊の要望が多くなっている。人気がある本は冊数を増やしたい。

理系への入学希望者は多くなってきている。特に物理・地理が多い。学生数には限度があるので、希望者を大勢入学させることができない。 予算が不足状態である。

### タンセン（総合）モルジバル・キャンパス（カレッジ）

教育中心の公立校。

近いうちジャーナリズム学部を開校したいので、その本を希望する。

1000人近い学生がいて、288名が修士。

### トリブヴァン大学文系



学生数 2300 名で修士まである。

マネージメント・教育など文系主体で図書は非常に役にたっている。試験の時期には足りない状態だ。 2部制となっている。

ミカの会からの発電機・内線電話は非常に役立つとのこと。見たところ綺麗になっていて、大事に使用していると見た。

### セン小学校

増築した新校舎



ミカの会にはセンが一番先に出会っている。そのことを自慢している。最初は 1 年生に土産をもらったが、そのこたちは今は 9 年生になっていて自慢にしている。日本人が来なくなったのは、自分達が何か悪いことをしたのかと思っている。センは 10+2 になる。理系・商業もいずれなる。ミカの会の本は別の本棚に入れて大切にしている。コンピュ

ーターをもらい試験の問題集作成に役にたっている。

10+2 で 59 名いて 31 名が女子 1~10 年で 600 名いる。

ミカの会には高齢者が大勢いて、狭い坂道が大変だと伝えたら、道を広げて車で入れると言っていた道路。



広くなった道路



左上が旧道 中央新道

### スリナガル大学



教育部は 10+2 で 12 年

マネージメント部は 10+2 にあと 3 年かかる。

学生は 400 名いて徐々に増えている。図書は大変役にたっていて、特に理系で役立っている。現在は図書より実験道具が欲しい。

## JVT

ブレから 10+2 まで居て 1783 名の在校生数。理系・商業もある。公立で理系があるのは JVT だけ。図書は利用されていて、今後の図書支援の積み重ねを要望。

コンピューター学部を新設し 10+2 のモデル校になり、試験の結果が良くなってきている。タンセンでもっと立派な学校にしたい。

## ミレニアム校



タンセンで 2000 年にできたので、ミレニアムという名前にした。教育学部から 65 名で初めて今では 10+2 含めて 800 名の学生となっている。最初は 2 冊貸すことが出来なかったが、3 万ルピーをもらい本が買え、その年からは 3 冊貸すことができるようになった。学生数 800 人を超えたのはミカの会の支援のおかげ。本の推してある判を見て何時もミカの会の話しをしている。新しく工事をしている所を見て欲しい。そこで図書室を造っている。新しい校舎の開校式に出て欲しい。これから新しい世代になっても友好関係を続けたい。

## TansenMultipleCampus

10 名の教授でトリブヴァン大学の許可より得て造った。

このカレッジは 10+2 から修士まであり 1 年生修士が 200 名 2 年生修士が 88 名いる。

校舎はインド政府からの支援で 1500 万ルピーの支援があった。

## ワーキングスクール

責任者の自宅によりインタビューする。

建物は自分のものになった。政府からの援助が来ないため、2人の先生への給料が払えなく休校としている。給料は2000ルピー/1人。また再開するにあたって、政府からは10:00~5:00の授業時間にしろと指示があるが、それでは小学校と変わらなくなってしまう。小学校はたくさんあるので、小学校にはしたくなく学校の空いている時間にスクールを行いたい。今先生はダサインで田舎へ帰っているが、資金があればダサイン後には即再開できる。再開するにあたって資金は先生2人で10000ルピー/月あればできる。先生1人でも出来る。



自宅前でインタビューを受ける責任者。

吉野 睦  
**Makoto Yoshino**  
First Secretary

**Embassy of Japan**  
1253, Narayan Gopal Sadak  
Panipokhari, Ward No. 3  
Kathmandu (North), NEPAL  
(P.O.Box No. 264)

Tel : (977-1) 4426680  
Fax : (977-1) 4414101  
E-mail : makoto.yoshino@mofa.go.jp  
<http://www.np.emb-japan.go.jp>

日本大使館 吉野 睦 氏

**JICA** For a better tomorrow for all

**Gopal Gurung**  
Program Officer

**Japan International Cooperation Agency  
Nepal Office**

P.O.Box 450, Kathmandu, Nepal  
(Karmachari Sanchaya Kosh Bldg, Hariharbhavan, Lalitpur)

Tel : 977-1-6662744 5010305  
Fax : 977-1-6662204 5010284  
E-mail : GopalGurung.NP@jica.go.jp  
gurunggopal@hotmail.com (personal)  
URL : <http://www.jica.go.jp>

JICA ネパール事務所 Gopal Gurung 氏